

令和7年度 第3回西原町地域公共交通協議会 会議資料

～各種調査の進捗及び結果概要等について～

1. 前回会議の振り返り.....	1
2. 今年度の調査・検討の進め方.....	3
3. 各種調査の概要と調査結果.....	5
4. ビッグデータによる移動特性把握.....	14
5. 西原町の移動に関する問題点.....	18

令和7年11月11日(火)



1. 前回会議の振り返り

■西原町の地域特性や、交通に関する現状と課題を共有させていただきました。

	課題	現状	対応案
1.	公共交通不便地域への支援	●町内一部地域ではバス停まで距離があり、公共交通の利用が不便な地域が存在。	○多様な交通手段の確保
2.	交通結節機能の強化	●幸地インターチェンジ等、新たな道路網に対応した交通結節機能の強化が求められている。	○新たな移動需要に対応する公共交通ネットワークの再構築
3.	交通渋滞の解消	●自家用車利用率が高く、道路交通量も増加傾向にあり、慢性的な交通渋滞が解消されない。	○公共交通への転換が可能な利用しやすい環境づくり
4.	観光需要に対応した公共交通の構築	●マリンタウンエリアのビーチには多数の来場者があるが、公共交通機関が行き届いていない状況。	○観光地へのアクセス性の確保
5.	教育分野の課題	●通学区域の広さから自家用車での送迎を頼まざるを得ない児童がいる。	○幼少期からのモビリティーマネジメントの検討
6.	公共交通の維持活性化	●交通事業者の運転手不足等により、既存バス路線の減便をせざるを得ない状況がある。	○公共交通の維持確保のための施策検討
7.	シェアサイクルの活用	●自動車に頼らない移動を促進するため、シェアサイクルの実証事業を実施している。	○利用促進に向けた取り組みを実施

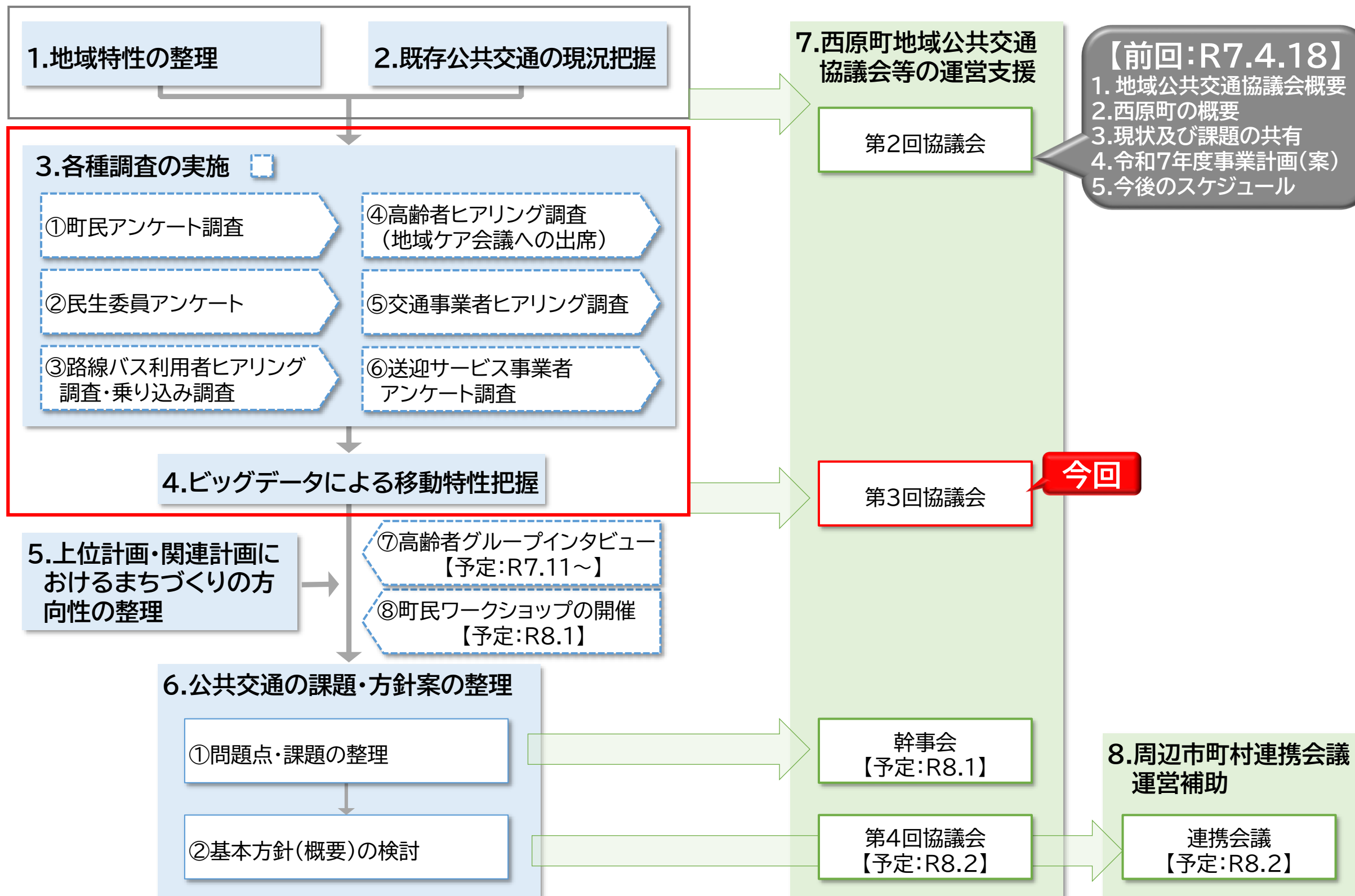
1. 前回会議の振り返り

■委員の皆様からいただいた主な意見は、以下の通りです。

- ▶**行政主体で公共交通を取り入れている周辺自治体**の状況等について**情報収集**を行っていただきたい。
- ▶西原町内の**道路整備の遅れも渋滞要因の一つ**であるため、混雑緩和のため**優先順位をつけて整備**を行っていただきたい。
- ▶**サンエー西原シティの公共交通結節点としての可能性**について検討していただきたい。
- ▶ビッグデータについては、会社によりサンプルが異なるため、西原町において**有益なデータを活用**していただきたい。
- ▶**観光目的**で来訪される方の移動に関する**需要調査**については、**時期を考慮**していただきたい。
- ▶社協独自の移動サービスのみでは限界があるため、計画策定を待たずして**早めに移動の支援が必要な方への事業が展開できるよう検討**していただきたい。
- ▶西原町では**公共交通の充実度に地域差がある**と感じているため、その解消に向け本協議会で検討していきたい。
- ▶バス利用に関しては高校生の利用も多いため**通学パターンを綿密に把握**していただきたい。
- ▶町内だけでなく、**近隣市町村も含めて人流を把握**していただきたい。 etc...

1. 今年度の調査・検討の進め方

●西原町地域公共交通計画は、2か年の調査・検討を経て策定する。令和7年度の調査・検討の進め方は以下を想定する。



本日の協議会でご議論いただきたいポイント

以下の視点も踏まえながら内容をご確認ください。

■ 各種調査結果について

- ✓ 必要な調査が行われているか？不足している視点がないか？
- ✓ 各立場からの補足がないか？事実と相違している事項がないか？
- ✓ 西原町に特に求められているものは何か？より議論を深めていくべき課題は何か？

■ 今後の進め方について

- ✓ 検討内容の方向性は適切か？
- ✓ 次回協議会までに確認を求めたい情報等がないか？
- ✓ 現時点で提案したい施策やアイデアがないか？

2. 各種調査の概要と調査結果

●住民の移動状況や移動に関するお困りごと等を把握するため、下記の調査を実施した。

調査項目	実施時期	調査概要	ページ番号
①町民アンケート調査 ※住民の意向把握	令和7年9月8日 ～令和7年10月10日	<ul style="list-style-type: none"> 望ましい移動サービスのあり方を検討していく上では、まずは住民の日常生活における外出状況を把握することが重要になる。 そのため、住民3,000世帯を対象にアンケート調査を実施した。※WEB併用 	P 6～7
②民生委員アンケート調査 ※住民の意向把握(地区代表)	令和7年9月3日 ～令和7年9月16日	<ul style="list-style-type: none"> 各地域において「外出に関する困りごと（移動手段がない・利用できないため必要な外出ができない等）」などについては、町民アンケート調査などでは十分に把握できないことも懸念される。 そのため、地区の実情を知る民生委員を対象にヒアリング調査を実施した。 	P 8
③路線バス利用者ヒアリング調査 ・乗り込み調査 ※住民の意向・実態把握(バス利用者)	令和7年10月1日(ヒアリング調査)、令和7年9月24日(乗り込み調査)	<ul style="list-style-type: none"> 路線バスの満足度や改善要望等を把握するため、路線バス利用者を対象にヒアリング調査を実施した。 また、路線バスの乗り込み調査を行い、西原町内を運行する主要バス路線(346番、30番)の西原町内区間における利用状況を把握した。 	P 9～11
④高齢者ヒアリング調査 (地域ケア会議への出席) ※住民の意向把握(高齢者)	令和7年9月25日～ ※複数回開催	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者をはじめとする交通弱者の意向把握が重要になる。 そのため、各自治会公民館で開催される、介護予防事業に同席する等によって、移動にお困りの高齢者を対象としたヒアリング調査を実施した。 	P 12
⑤交通事業者等ヒアリング調査 ※交通事業者の意向把握	令和7年8月27日 ～令和7年8月29日	<ul style="list-style-type: none"> 地域公共交通の実態や問題点については、実際に運行を行っている交通事業者等が定性的に把握している部分も大きい。 また、新たな交通モードなどを検討していくうえで、交通結節点としての機能を担う施設についても、意向を把握しておく必要がある。 そのため、路線バス事業者(2社)、タクシー事業者(4社)、交通結節施設(1社)を対象にヒアリング調査を実施した。 	P 12
⑥送迎サービス事業者アンケート調査 ※民間の意向把握	令和7年10月3日 ～令和7年10月24日	<ul style="list-style-type: none"> 国土交通省が示す「地域の輸送資源の総動員」の観点から、公共交通以外の送迎サービスの運行状況、利用状況、公共交通との連携の可能性を検討する。 そのため、町内の病院、商業施設等で送迎サービス等を行っている可能性がある事業者を対象にアンケート調査を実施した。 	P 13

①. 町民アンケート調査

○15～84歳の住民3,000人(無作為抽出)を対象に、郵送配布・回収によるアンケート調査を実施 ※信頼水準90%・許容誤差10%を確保

○回収率は約35%(紙:688票、WEB:349票、全体:1,037票)

○設問項目(概要)

- ・日常生活の移動実態(日々の買い物、特別な買い物、通院)
- ・公共交通の利用の有無、利用実態、改善要望 など

●回答者の年齢は、実人口と比較して、**若年層の回答割合が低く、高齢層の回答割合が高くなっている。**

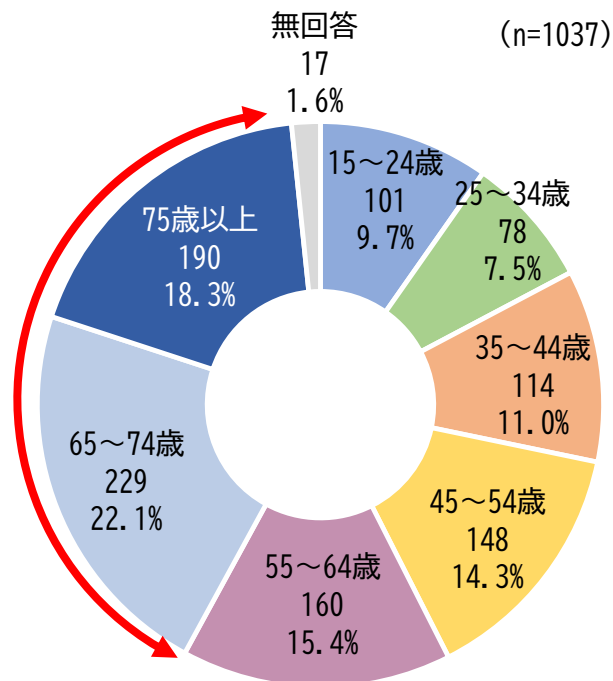


図 回答者の年齢

●最近1ヶ月の公共交通の利用状況は、**約7割が「利用していない」と回答**。年齢が下がるにつれて利用者は増加し、若年層は約5割が「利用している」と回答している。

●利用した公共交通は、「**モノレール**」が約7割と多く、次いで「**路線バス**」が約5割となっている。

●公共交通利用時の**外出目的**は、「**飲食**」や「**通勤・通学**」が多く、「**通院**」等で公共交通を利用している人は少ない。

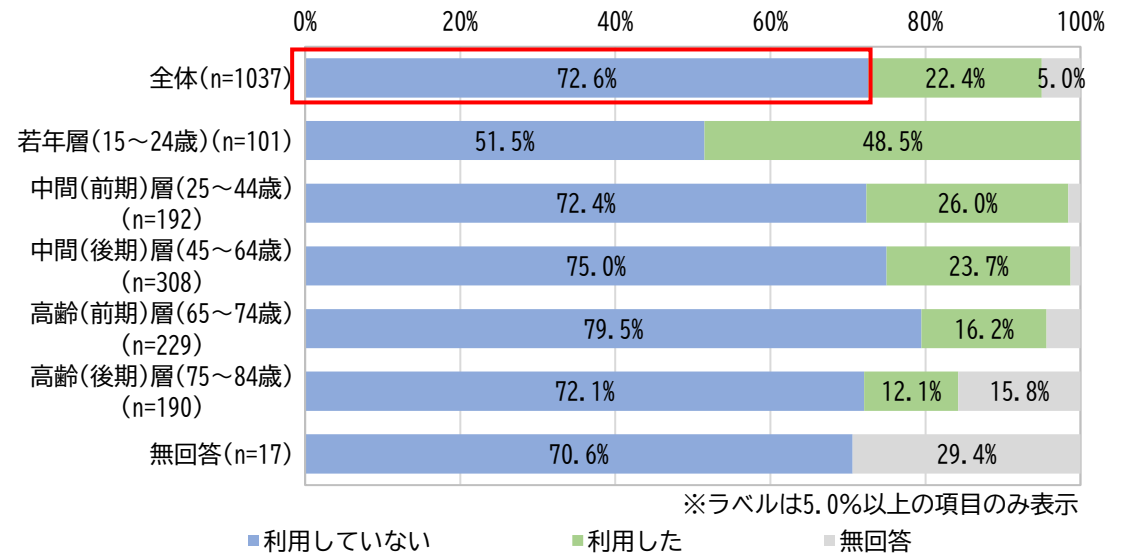


図 最近1ヶ月の公共交通利用状況

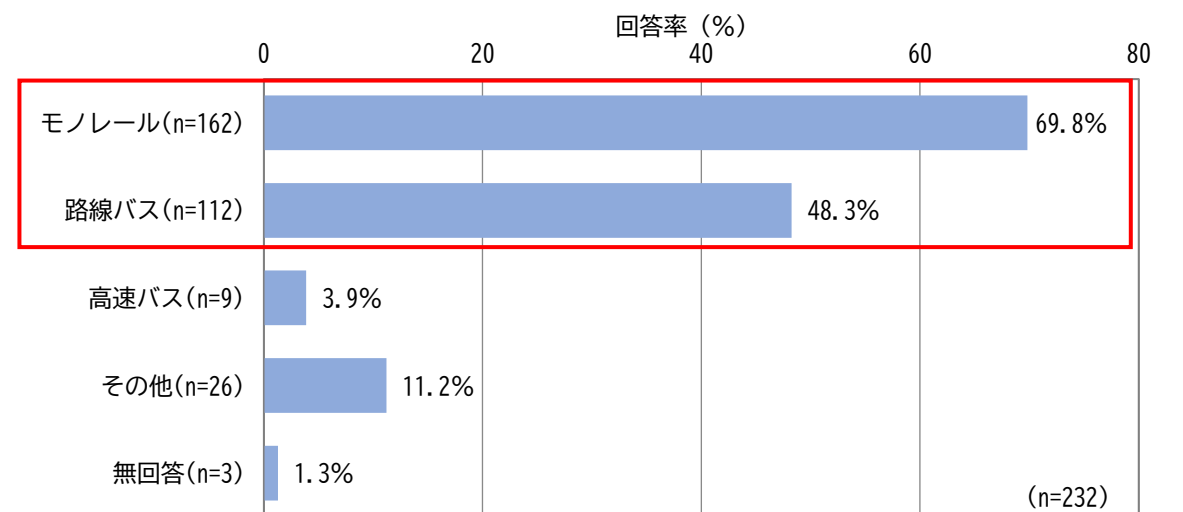


図 利用した公共交通機関

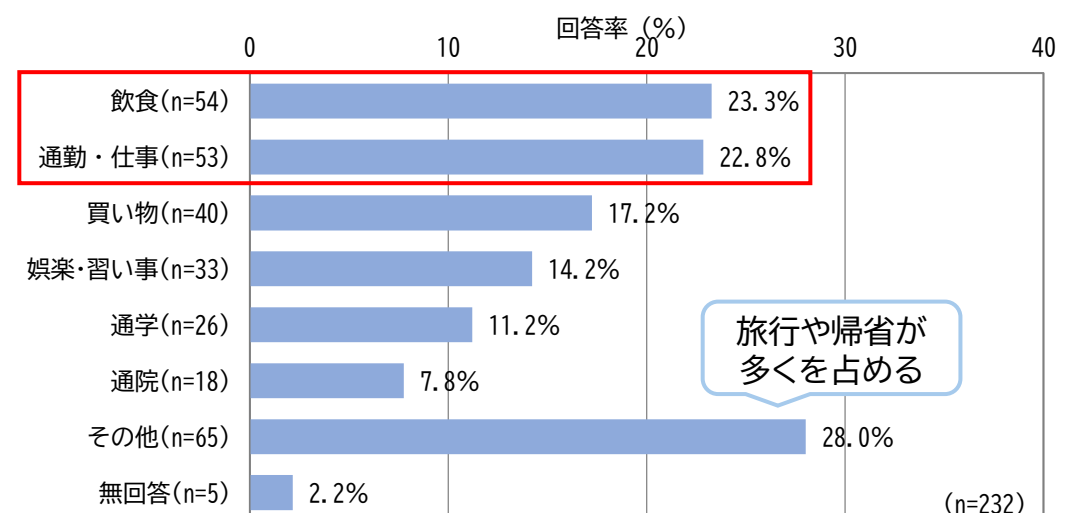


図 公共交通利用時の外出目的

①. 町民アンケート調査

- 公共交通に対する不満は「**運行便数が少ない**」が最も多く、次いで「**自宅からバス停等までの距離が離れていて歩くのが大変**」と感じている回答者が多い。
- 現在の移動手段に対しては不安等を感じていない回答者が半数以上である。
- 仮に公共交通を利用する場合には不安等を感じていない回答者が多いが、**所要時間・運賃が不明等、公共交通の周知・広報の面で解消できる内容も多い。**

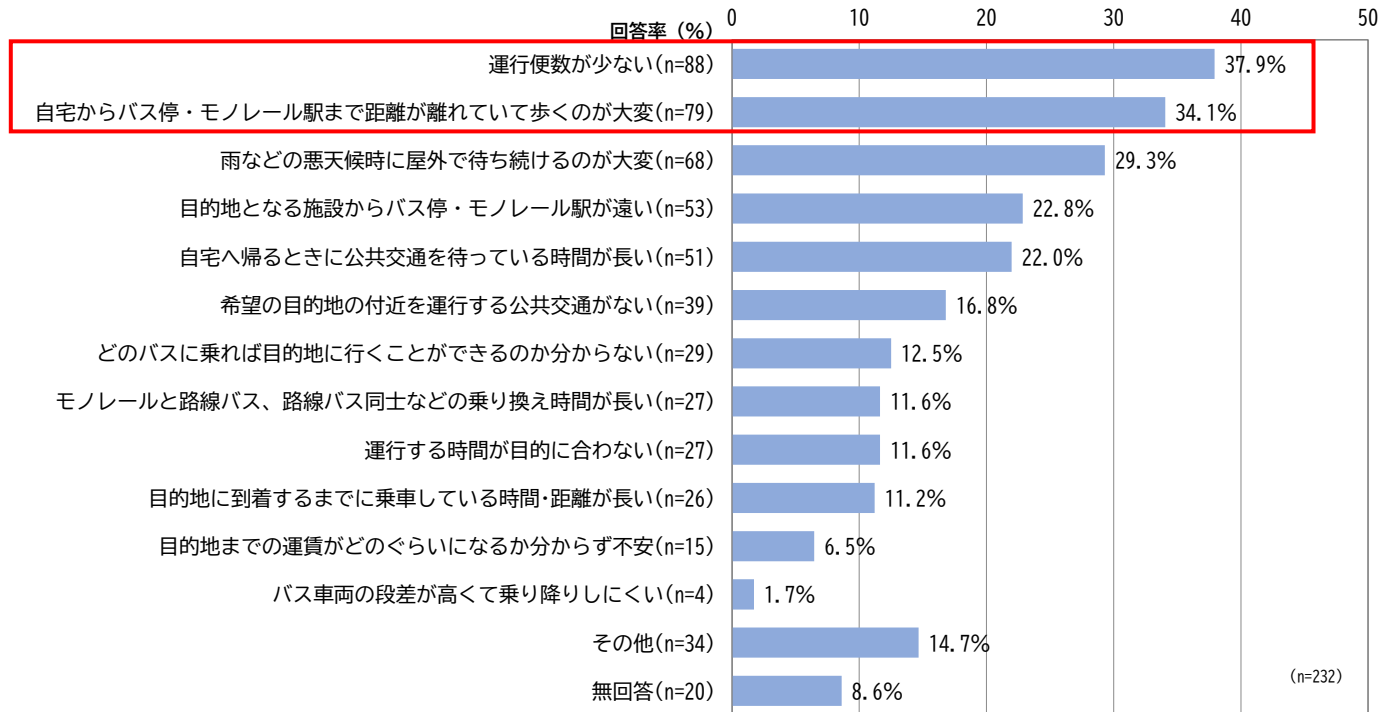


図 公共交通に対する不満

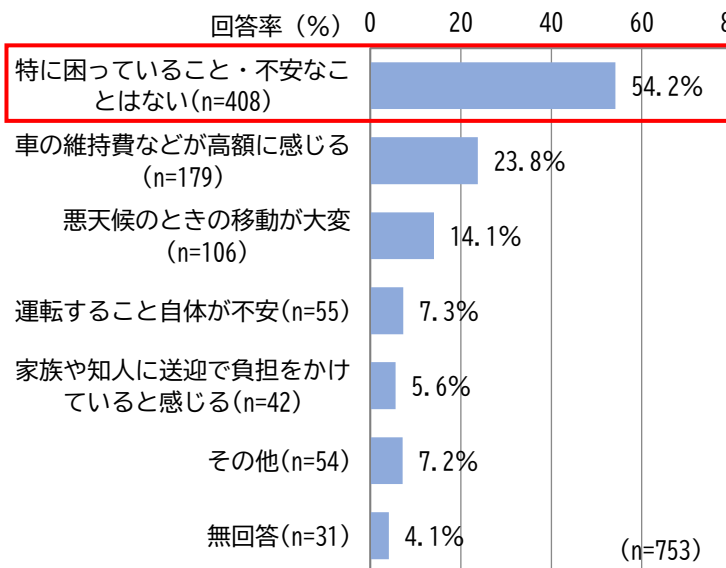


図 現在の移動手段を利用する上での不安等

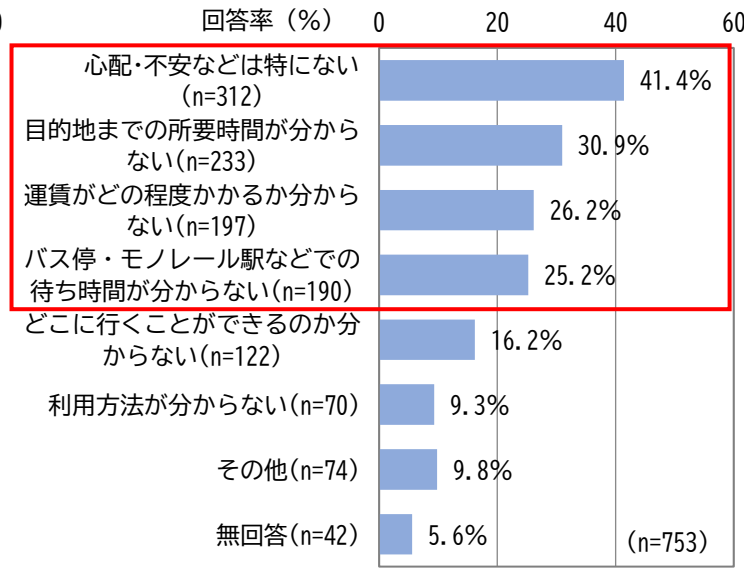
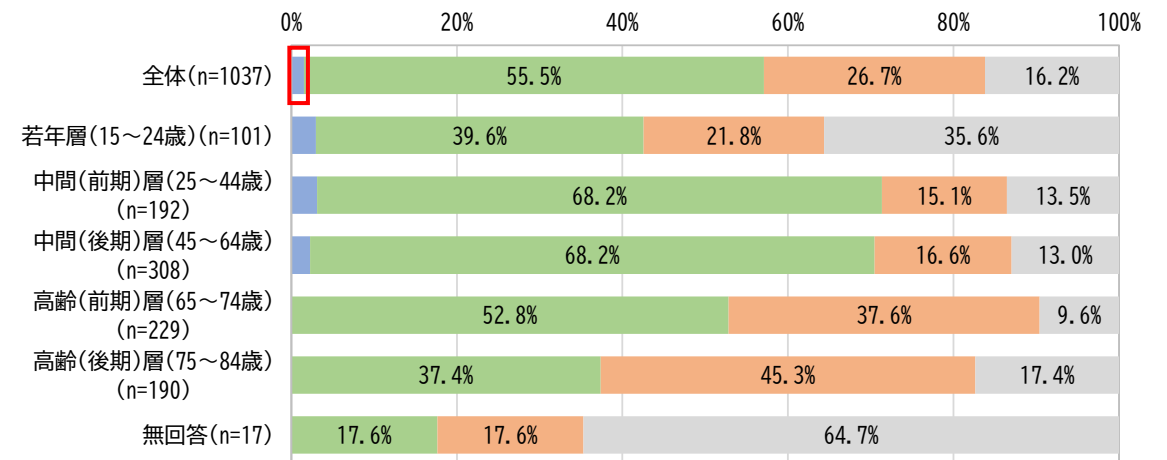


図 仮に公共交通を利用する場合の不安等

- 過去1年間のシェアサイクルの利用状況は、「**利用したことがある**」と回答した人は約**2%**。年齢が上がるにつれてシェアサイクルの認知度も低下している。
- 今後のシェアサイクル利用意向は、「**利用したい(ぜひ・やや)**」と回答した人は約**11%**。



※ラベルは5.0%以上の項目のみ表示

- シェアサイクルの存在を知っていて、利用したことがある
- シェアサイクルの存在を知っていたが、利用したことがない
- シェアサイクルの存在を知らず、利用したことがない
- 無回答

図 過去1年間のシェアサイクル利用状況

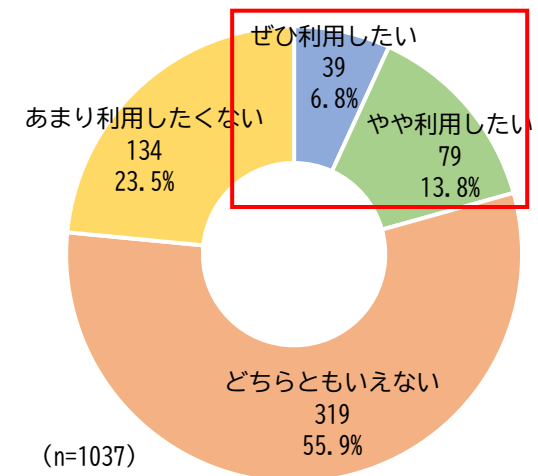


図 今後のシェアサイクル利用意向

- シェアサイクルの最頻値(R7.3月実績)
- ① 上原高台公園⇒てだこ浦西駅 : 277回/月
 - ② イルカ公園⇒イルカ公園 : 265回/月
 - ③ てだこ浦西駅⇒琉球大学 : 233回/月

②. 民生委員アンケート調査

- 町内で活動する民生委員54名を対象に、定例会の配布・回収によるアンケート調査を実施
- 回収率は約70%(38名)
- 設問項目(概要)
 - ・外出に関する「困りごと」や、その対応の実態 など

- 地区によってはネット注文、移動・訪問販売、親族や地域コミュニティによる送迎などのサービスを提供している。
- 一部の地区では、**いいあんべー共生事業等**を活用して移動している。

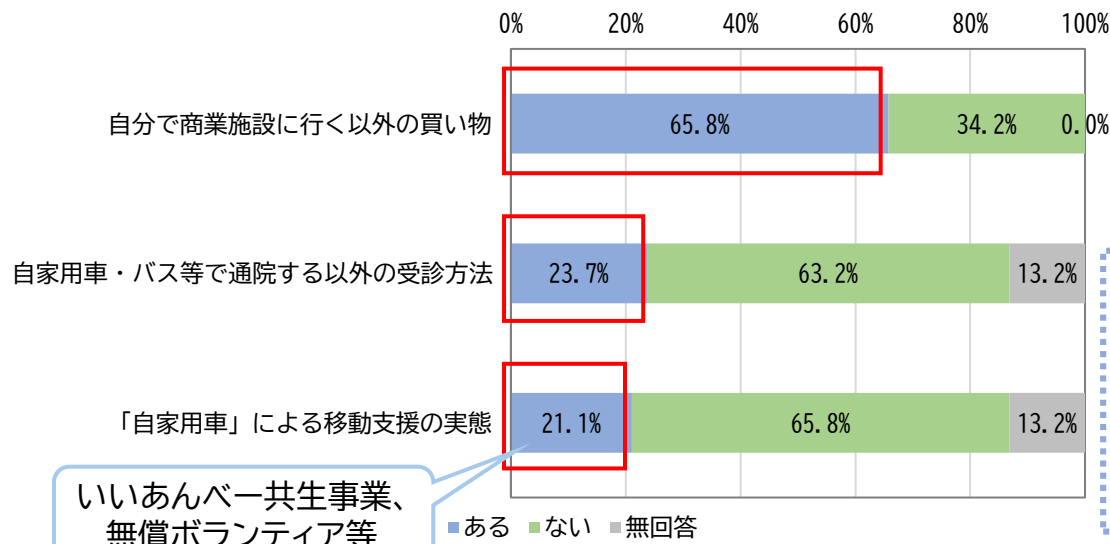


図 担当地区の実状

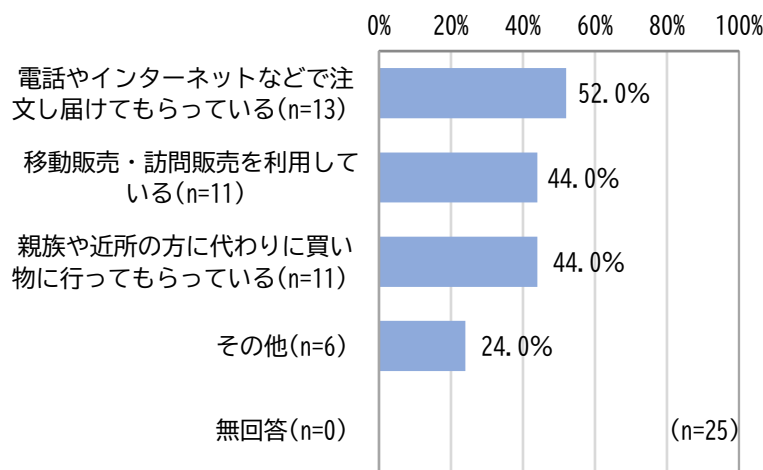


図 自分で商業施設に行く以外の買い物方法

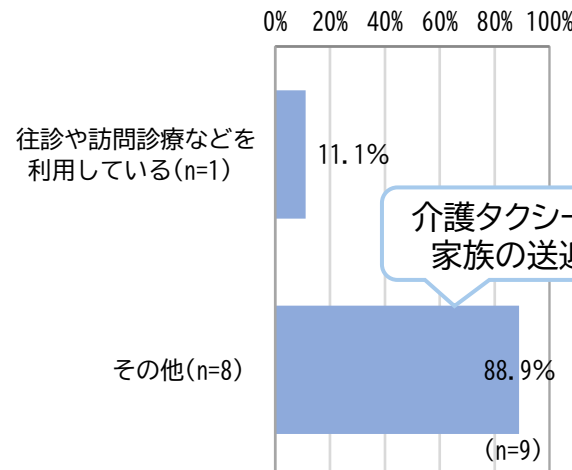


図 自家用車・バス等で移動する以外の受診方法

- 6割以上が路線バスなどの移動サービスを利用できずに困っている実態が「ある」と回答している。
- その理由としては、「バス停等まで歩けないこと」や「路線バスの運行する時間が目的に合わない」と回答している。
- 「自宅付近までバスなどが来てくれる移動サービス」や、「目的地近くまでのバス等の運行」などに対する要望が多い。

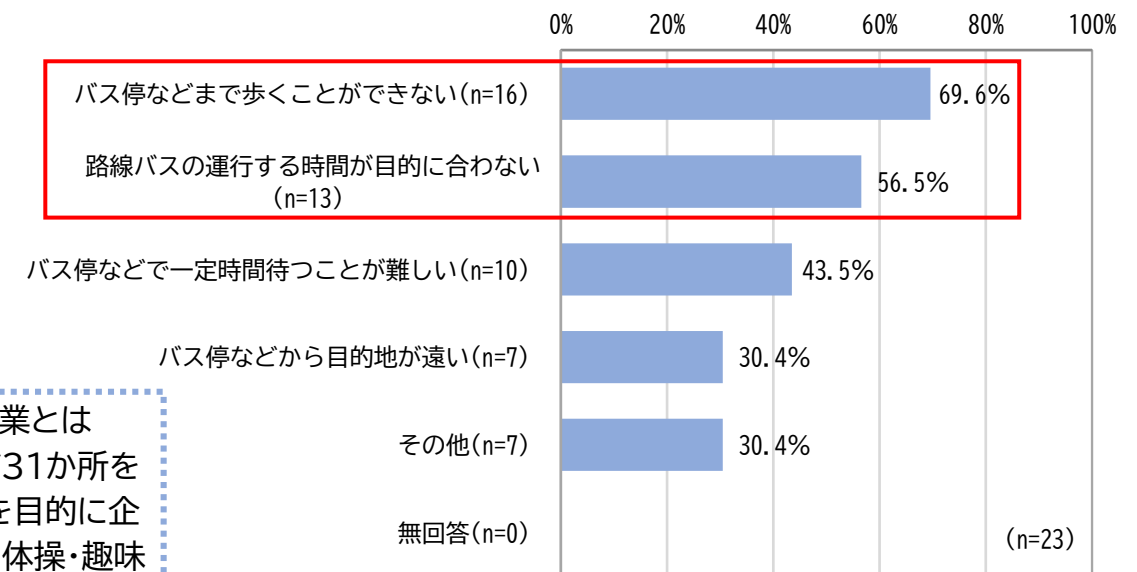


図 移動サービスが利用できない理由

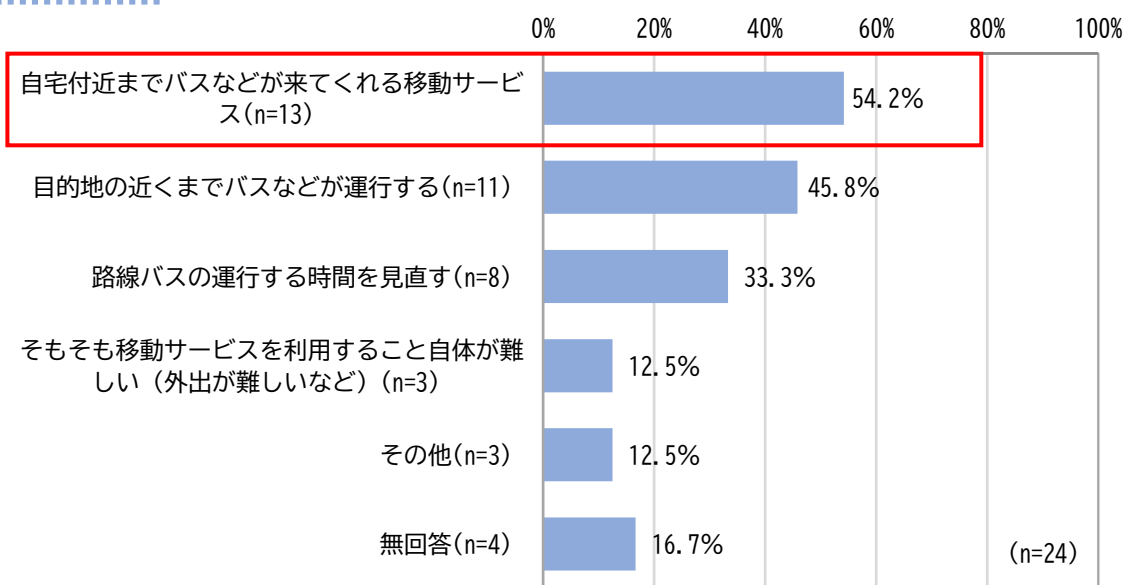


図 望ましい支援・サービス

③. 路線バス利用者ヒアリング調査・乗り込み調査

■路線バス利用者ヒアリング調査

- 住民アンケートや乗り込み調査で利用者多かった5つのバス停において、路線バス利用者のヒアリング調査を実施 ※WEB併用
- 調査場所:小那覇、翁長、西原シティ前、西原、オキコ前
- 回答数は210名
- 設問項目(概要)
 - ・路線バスの満足度、改善要望 など

- バス利用者の満足度は、「運賃」「乗り継ぎ無しの移動」は肯定的な意見が多く、「運行本数」「ダイヤの正確性」「待合環境」は否定的な意見が多い。

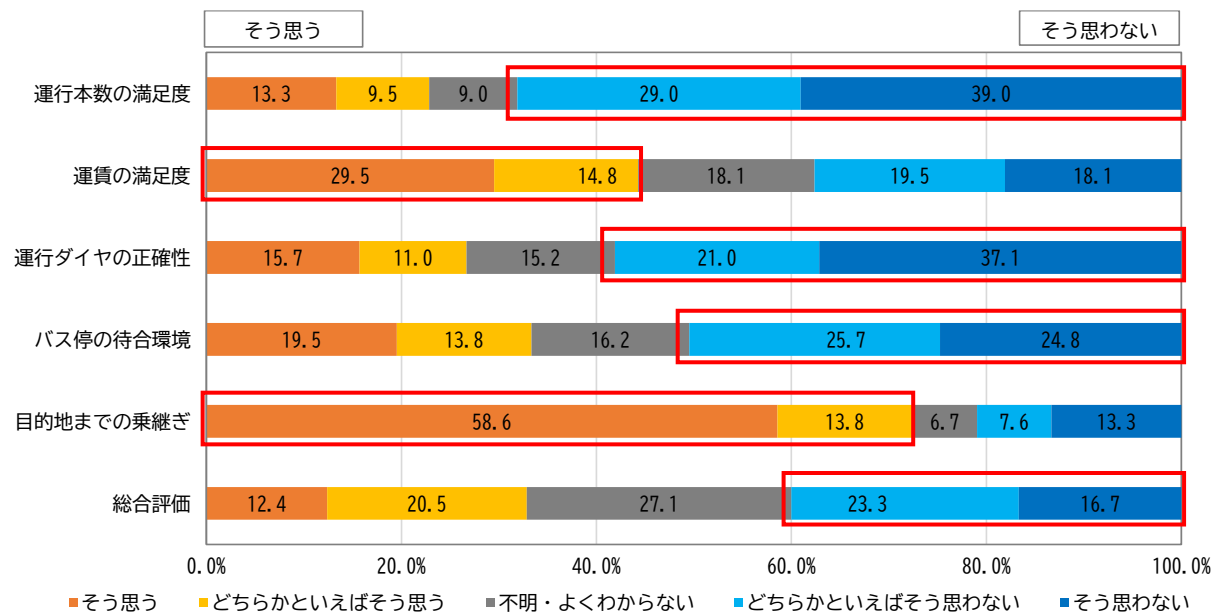


図 路線バスの満足度

- 改善要望に関する最も多いキーワードは「運行本数を増やしてほしい」等、**増便要望**が突出している。
- 次いで、「時間通りに運行してほしい」や「屋根・ベンチを設置してほしい」等、運行ダイヤの正確性やバス停の待合環境の改善要望が多い。

■改善要望(103件)の主な意見

- ・運行本数を増やしてほしい。(午前・午後・最終・土日祝の増便、1時間1本は少ないなど)
- ・時間通りに運行してほしい。(通勤通学時間帯は20分ほど遅れる、毎日遅刻しそうなど)
- ・屋根・椅子・ベンチを設置してほしい。(雨対策をしてほしい、屋根やベンチの設置など)
- ・定期券購入場所の追加、キャッシュレスの導入、町内循環バスの導入など

■乗り込み調査

- 路線バスの利用者数を把握するため、運行本数が多い系統を対象とした、乗り込み調査(1日全便、町内の乗降者を対象)を実施
- 調査対象:[30]泡瀬東線、[346]那覇西線
- 設問項目(概要) ・乗車人数、降車人数、車内人員 など

- 調査結果は以下の通りである。
- [30]泡瀬東線(那覇バスターミナル⇄泡瀬営業所)
 - 那覇市方面:17便(乗車:242人、降車66人)
 - 沖縄市方面:17便(乗車:253人、降車145人)
- [346]那覇西線(那覇バスターミナル⇄西原営業所)
 - 那覇市方面:17便(乗車:323人、降車132人)
 - 西原町方面:17便(乗車:280人、降車270人)

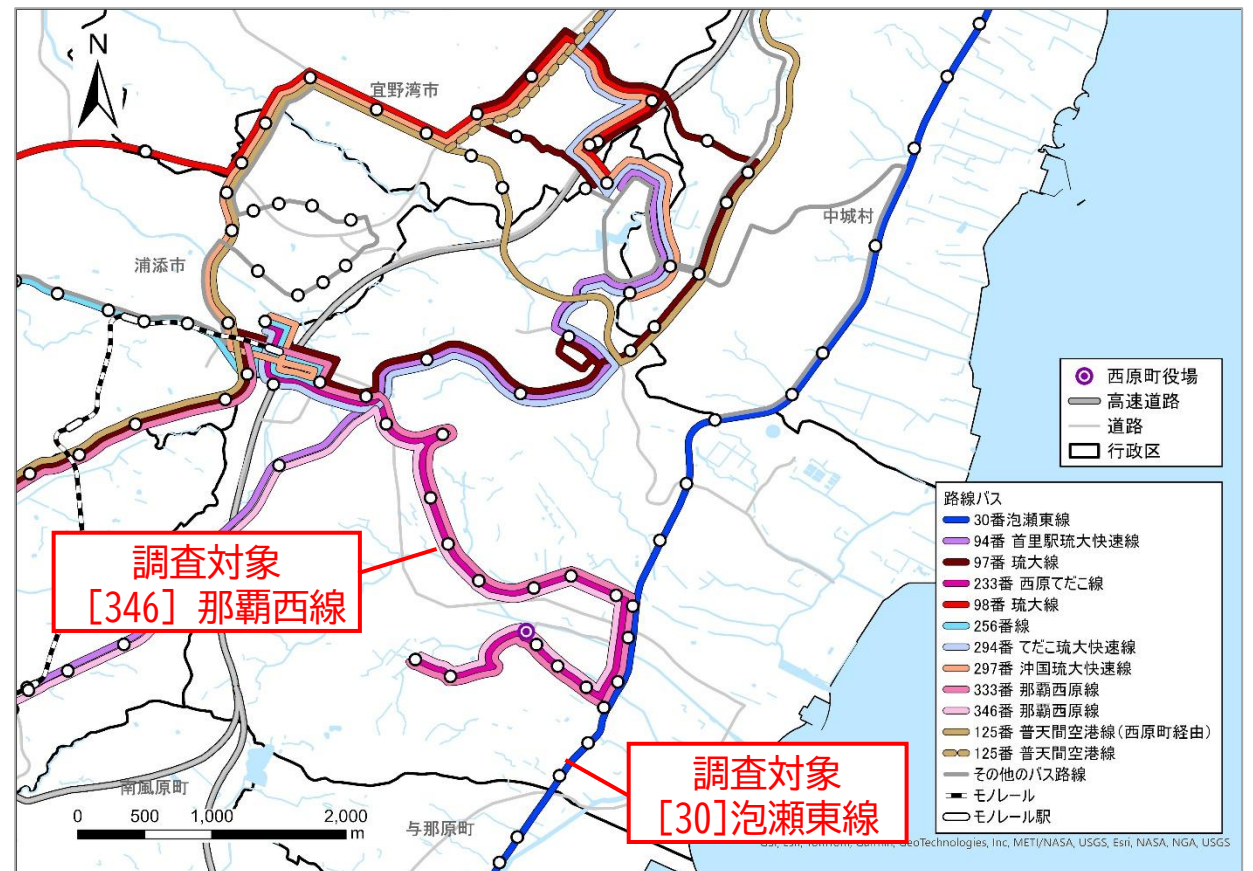


図 西原町内を運行するバス路線図(12系統)

③. 路線バス利用者ヒアリング調査・乗り込み調査

■乗り込み調査([30]泡瀬東線)

- 那覇市方面への乗車が多く、沖縄市方面への降車が多くなっています。
- 時間帯は、7時台と、11～18時の利用が多く、通勤通学時間帯の他、日中の利用が多くなっています。
- サンエー西原シティに隣接する「小那覇」や「ハートライフ病院前」の利用が多くなっており、**日常の買い物や通院手段として主に利用**されています。

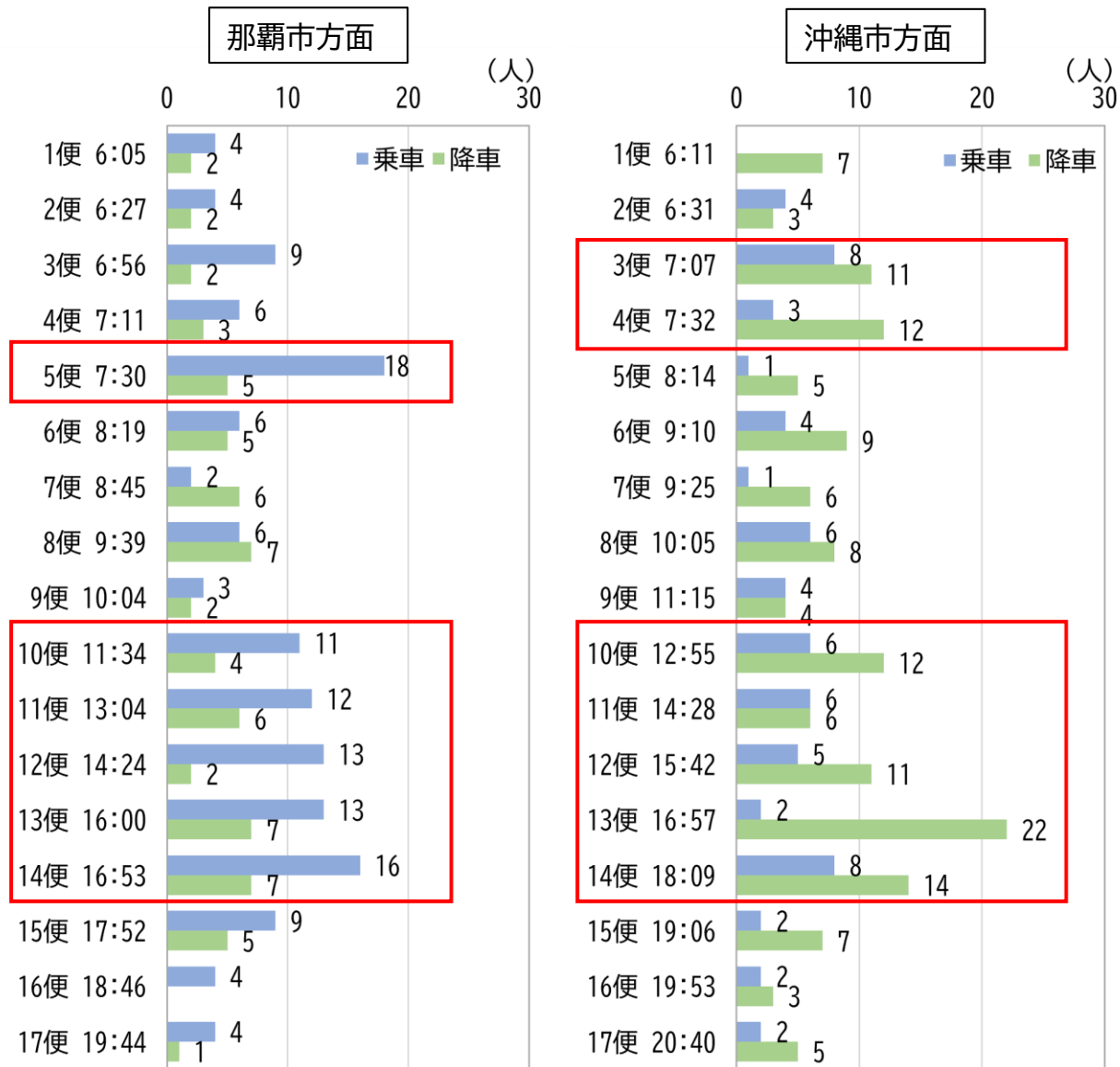


図 [30]泡瀬東線の1便当たりの利用者数

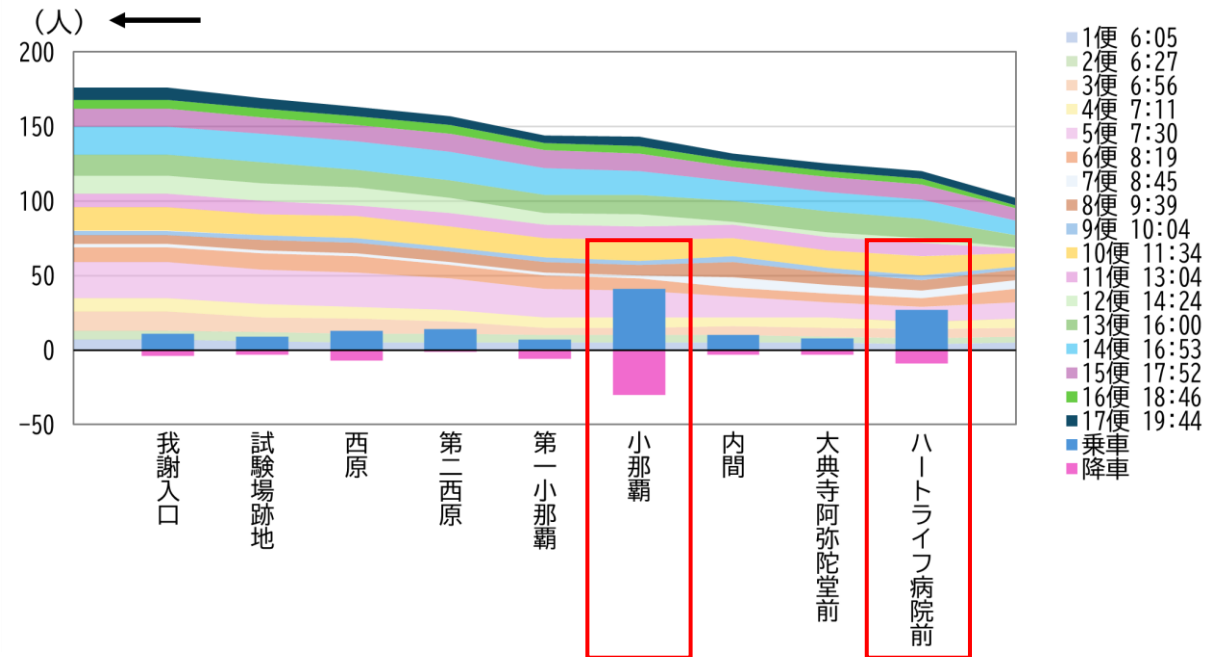


図 [30]泡瀬東線の区間別車内人員(那覇市方面)

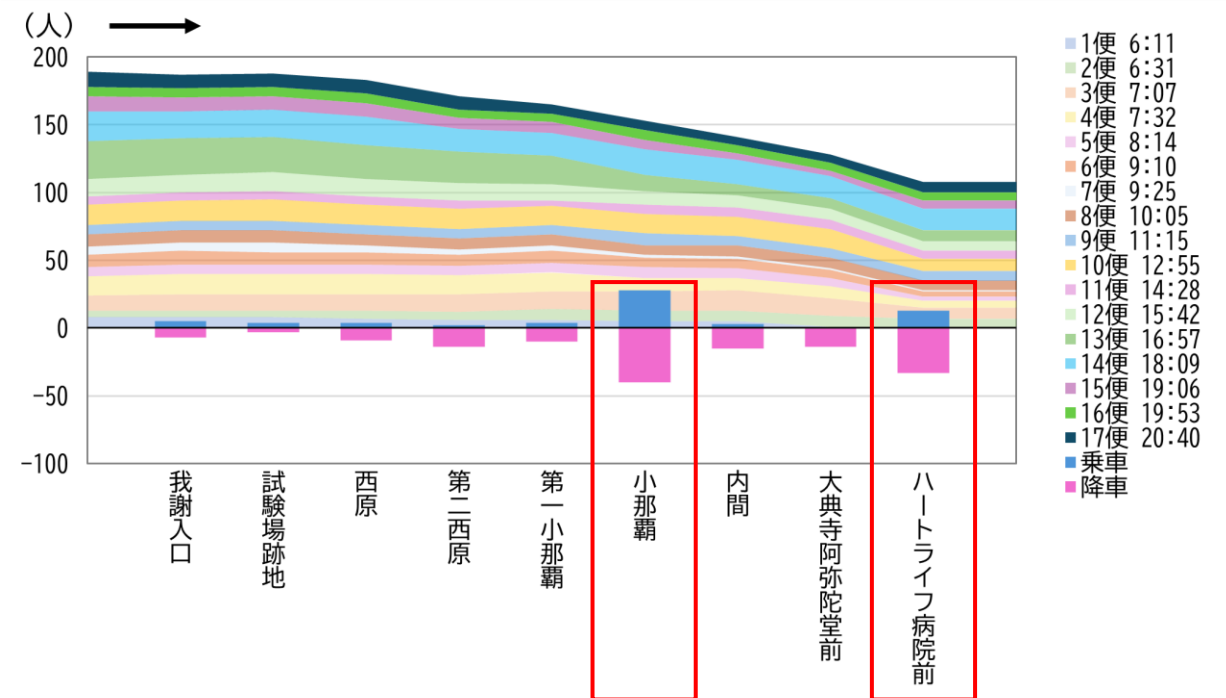


図 [30]泡瀬東線の区間別車内人員(沖縄市方面)

③. 路線バス利用者ヒアリング調査・乗り込み調査

■乗り込み調査([346]那覇西線)

- 那覇市方面への乗車が多く、西原町方面への降車が多くなっています。
- 時間帯は、那覇市方面へ6～9時台に乗車し、西原町方面へ15～19時に降車する、通勤通学時間帯の利用が多くなっています。
- 「西原シティ前」や西原高校が隣接する「翁長」の利用が多くなっており、**日常の買い物や通学手段として主に利用**されています。

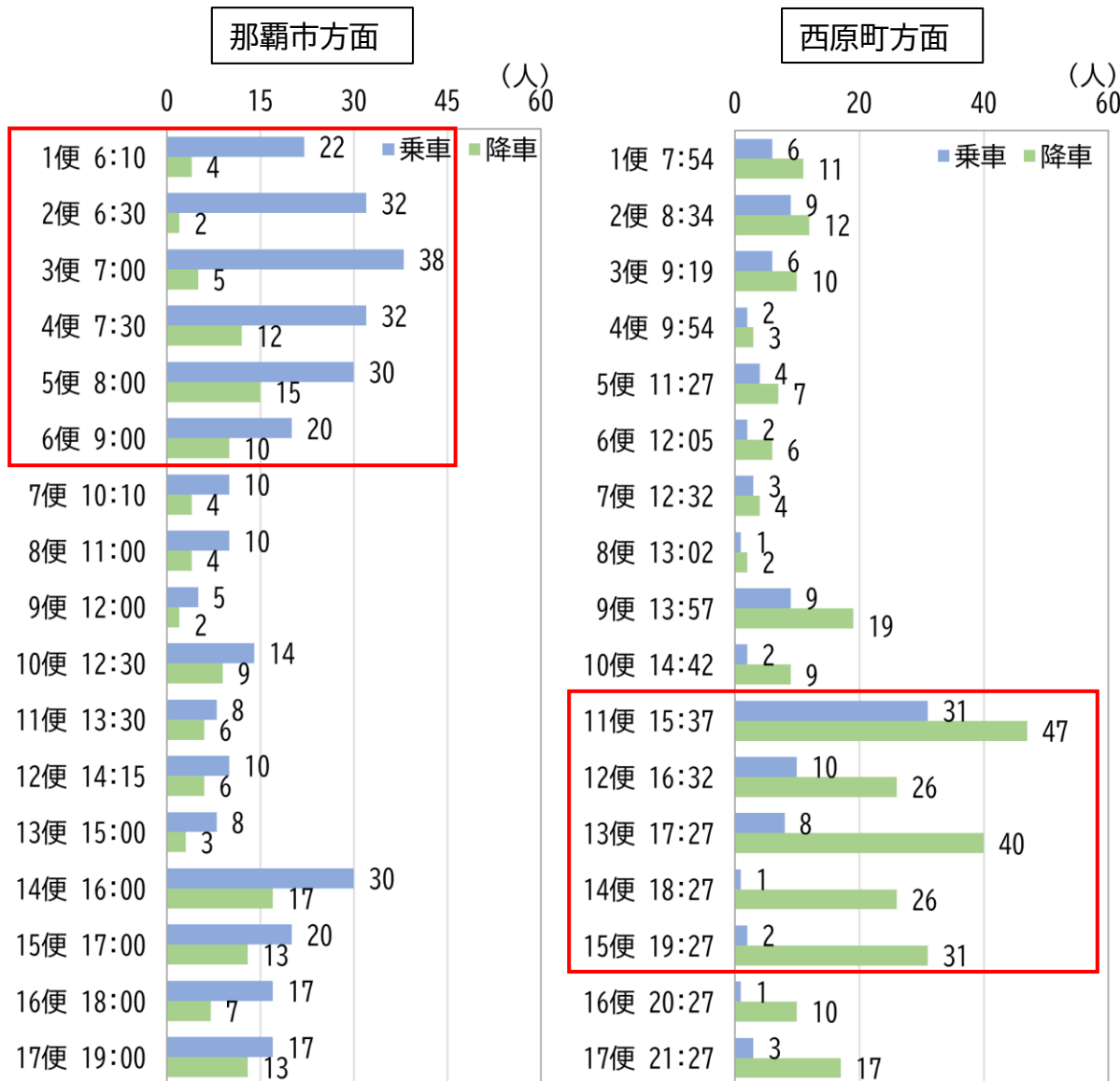


図 [346]那覇西線の1便当たりの利用者数

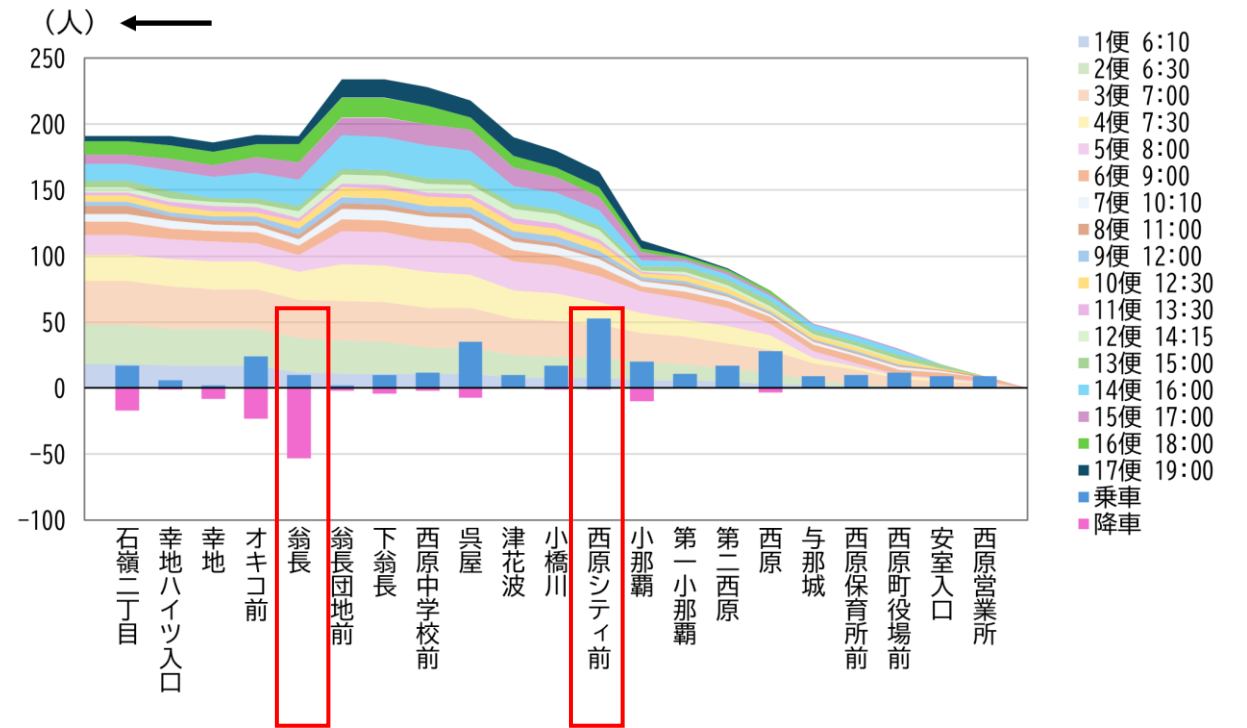


図 [346]那覇西線の区間別車内人員(那覇市方面)

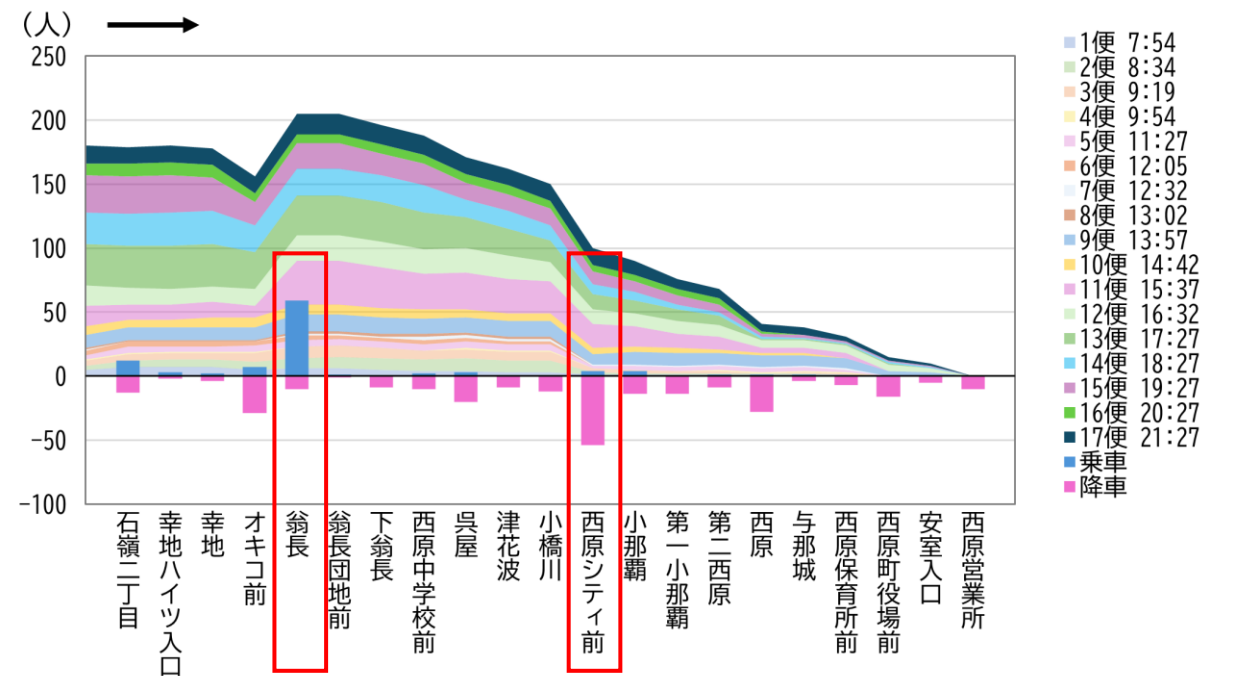


図 [346]那覇西線の区間別車内人員(西原町方面)

④. 高齢者ヒアリング調査（地域ケア会議への出席）

- 移動にお困りの高齢者を対象としたヒアリング調査を実施
- 調査場所：地域ケア会議
 - ★今後、交通空白地にある6自治会（池田・小波津団地・我謝・兼久・小橋川・棚原）で実施調整中 ※その他、要望に合わせて実施予定
- 設問項目（概要）
 - ・移動に関する困りごとやその対応状況 など

■高齢者の移動に関する問題点



- 公共交通の不便さ
 - 坂道がきつい、**バス停が遠い等身体的な障壁が多い**。その他、座る場所や上屋の設置などバス停環境の改善要望がある。
- 病院へのアクセス困難
 - 琉球大学病院の**移転により通院が困難になった例もあり**、訪問診療への切り替えが進んでいる。
- タクシーの利用困難
 - 料金が高く、時間帯によっては手配が困難となっている。**貧困世帯では交通費が負担**となっており、通院控えに繋がっている。
- 免許返納後の引きこもり傾向
 - 移動手段がなくなることで**外出機会が減少**している。

■地域支援サービスの現状



- 買い物支援サービス
 - 社会福祉協議会では、交通空白地や免許返納で買い物に困っている方等を対象に、モデル事業として、**買物送迎サービスを実施**。今後ニーズ調査を進め、対象地域を拡大予定である。
- 福足サービス（通院支援等）
 - 社会福祉協議会では、いいあんべー共生事業や**通院送迎サービスを実施**。**運転協力員の確保が課題**である。
- 地域の送迎ボランティア
 - 自治会長による送迎などがあるが、担い手不足により、継続が困難になっている。

⑤. 交通事業者等ヒアリング調査

- 西原町内を運行する路線バス事業者（2社）、タクシー事業者（4社）、交通結節施設（サンエー西原シティ）を対象にヒアリング調査を実施
- 設問項目（概要）
 - ・交通事業者の課題認識、町民の移動特性、連携可否 など



バス事業者

- 公共交通ネットワークの2分化
 - 町内の路線は、主に琉大生向けの路線と西原住民向けの2路線に分けられる。
- 運転手不足の深刻化
 - 2024年問題（働き方改革による時間外労働の上限規制）もあり、**運転手不足が深刻化**している。
- 新たな移動サービスの導入について
 - 仮に町独自の新たな移動サービスの導入を検討する場合は、**既存の交通サービスと共存できる形を検討**してほしい。



タクシー事業者

- タクシー利用者の特徴
 - 高齢者の買い物や通院が主な利用。一方、琉大周辺は若者・留学生が主な利用となっている。
 - **臨海部への観光客の利用はほとんどない**。
 - タクシーの利用時間帯は集中するため、**住民からは「呼んでも来ない」という声**が多く寄せられる。
- 運転手不足の深刻化
 - 2024年問題（働き方改革による時間外労働の上限規制）もあり、**運転手不足が深刻化**している。
- 新たな移動サービスの導入について
 - 仮に町独自の新たな移動サービスの導入を検討する場合は協力可能。**メインターゲットを設定し、持続可能な仕組みを構築**する必要がある。



交通結節施設

- 交通結節施設としての連携可能性
 - サンエー西原シティから**バス停までの歩行者導線を整備**は、実現の可能性がある。
 - **施設内に待合環境**（デジタルサイネージや案内表示の設置等）を整備は、実現の可能性がある。

⑥. 送迎サービス事業者アンケート調査

- 公共交通以外に、町内で送迎サービス事業を実施している、病院、社会福祉協議会、商業施設等を対象としたアンケート調査を実施
- 回答数は12件(22件配布)
- 設問項目(概要)
 - ・送迎サービスの問題・課題、送迎サービスの継続意向 など

- 車両の維持管理や運転手不足の問題を抱えており、「現状のままでは継続していくことが難しい」と回答も約4割見られる。

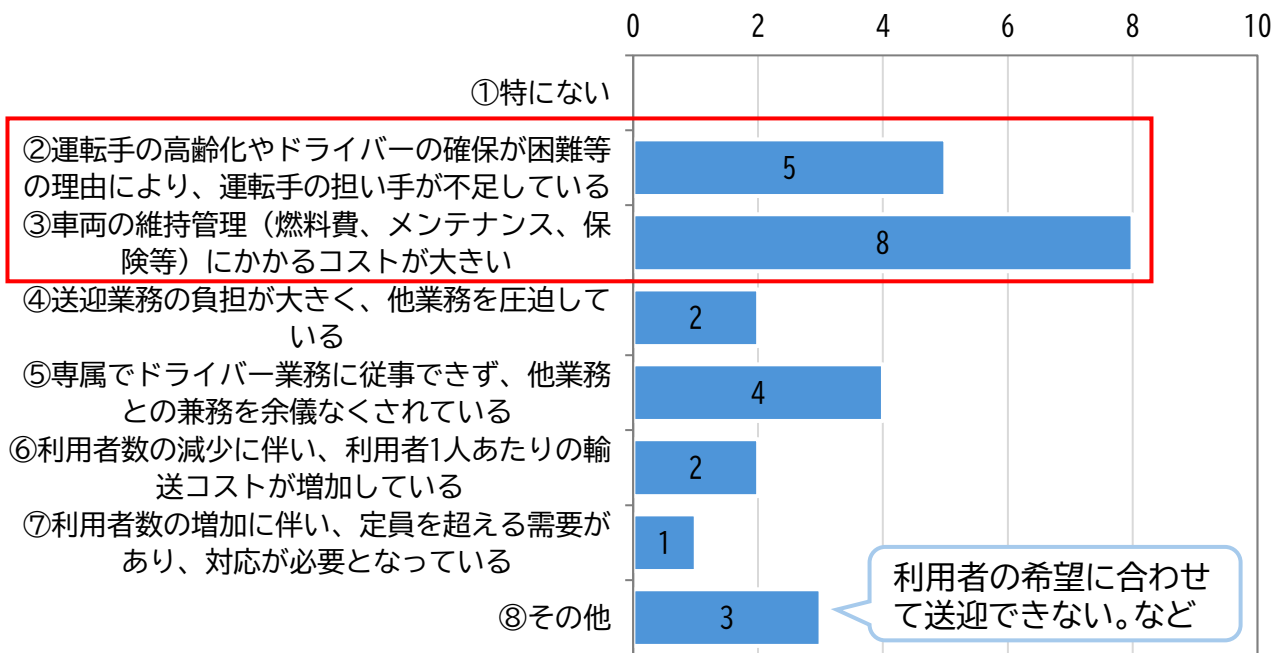


図 送迎サービス事業に関する経営・運営上の問題・課題

- ①現状のままで問題はなく、今後も継続していく方針
- ②今後も継続意向だが、現状のままで継続していくことは難しい
- ③送迎サービスを継続することが難しく、廃止を検討している

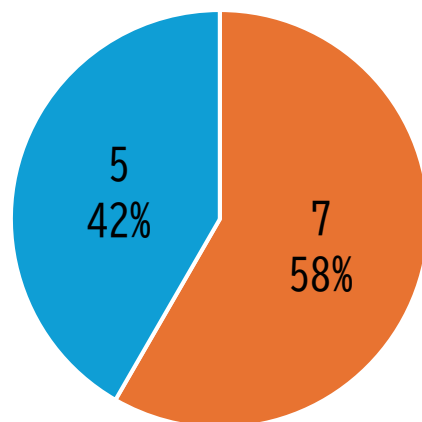


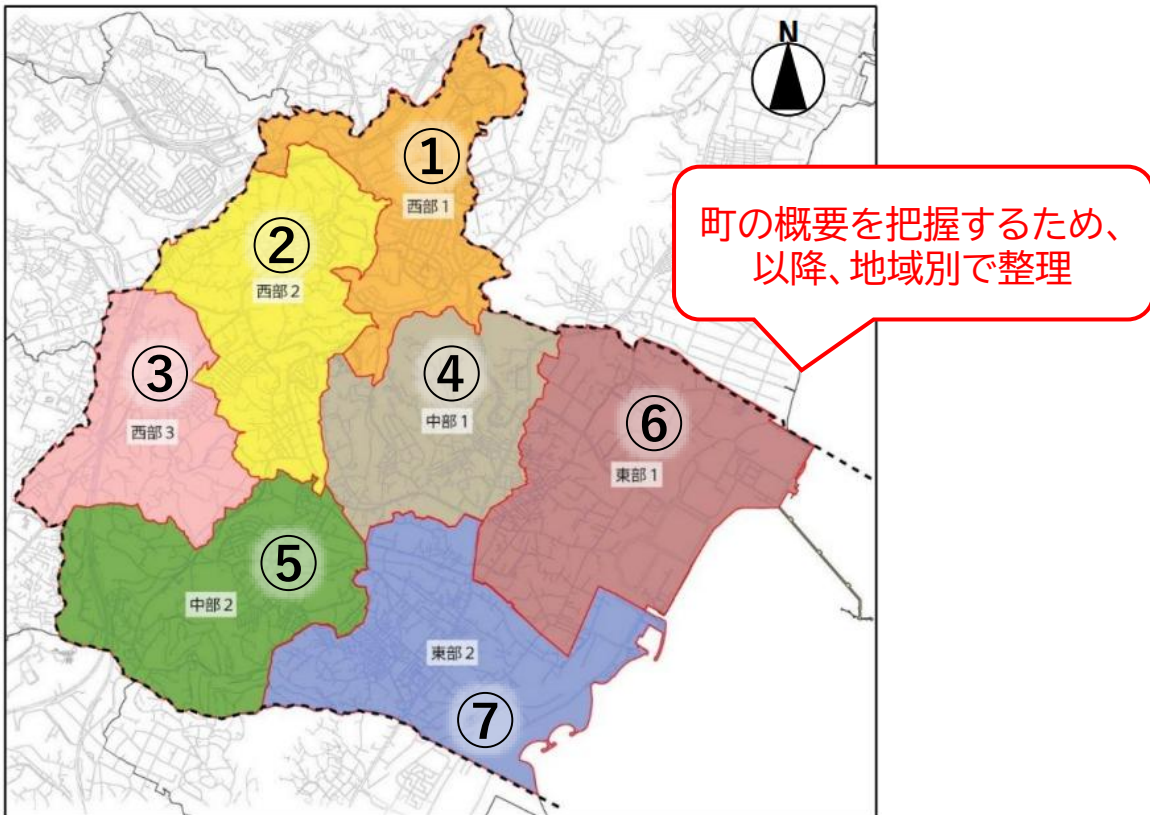
図 送迎サービス事業の継続意向

3. ビッグデータによる移動特性把握

- 西原町全体の移動特性について、“人の動き”に合致した移動サービスが提供されているか確認するため、ビッグデータを活用し分析を行った。
- なお、ビッグデータは、GPS位置情報に基づき、移動の詳細が把握可能な「GEOTRA(KDDIグループ)」を使用した。
- ★ 今後、「沖縄本島中南部都市圏パーソントリップ調査(R5~7)」の追加分析を行い、データを補完予定

■ 分析概要

- ✓ 西原町全域を対象とし、平日1日の平均移動状況(R6.10月)をトリップ数で表示
- ✓ トリップ数は、15分以上の滞在があった場所間の移動を1トリップとしてカウント
- ✓ 都市計画マスタープランの地域区分に沿って、地区内外の移動を整理



地区	含まれる行政区
西部1	千原、森川、上原
西部2	棚原、徳佐田、翁長、坂田、県営坂田高層住宅
西部3	幸地、県営幸地高層住宅、幸地ハイツ
中部1	呉服、津花波、西原台団地、小橋川、内間、県営内間団地、嘉手苅
中部2	池田、小波津、県営西原団地、小波津団地、安室、桃原、西原ハイツ
東部1	掛久保、小那覇
東部2	平園、兼久(東崎)、与那城、美咲、我謝

図 西原町都市計画マスタープラン地域区分図

出典：西原町都市計画マスタープラン(令和7年8月)

①. 西部1(千原、森川、上原)の移動

- 西部1の移動状況を見ると、地区内の移動が突出しているほか、那覇市や宜野湾市、中城村といった近隣市町村への移動が多くなっている。
- 主な移動については、**バス路線で概ね対応可能な状況**となっている。

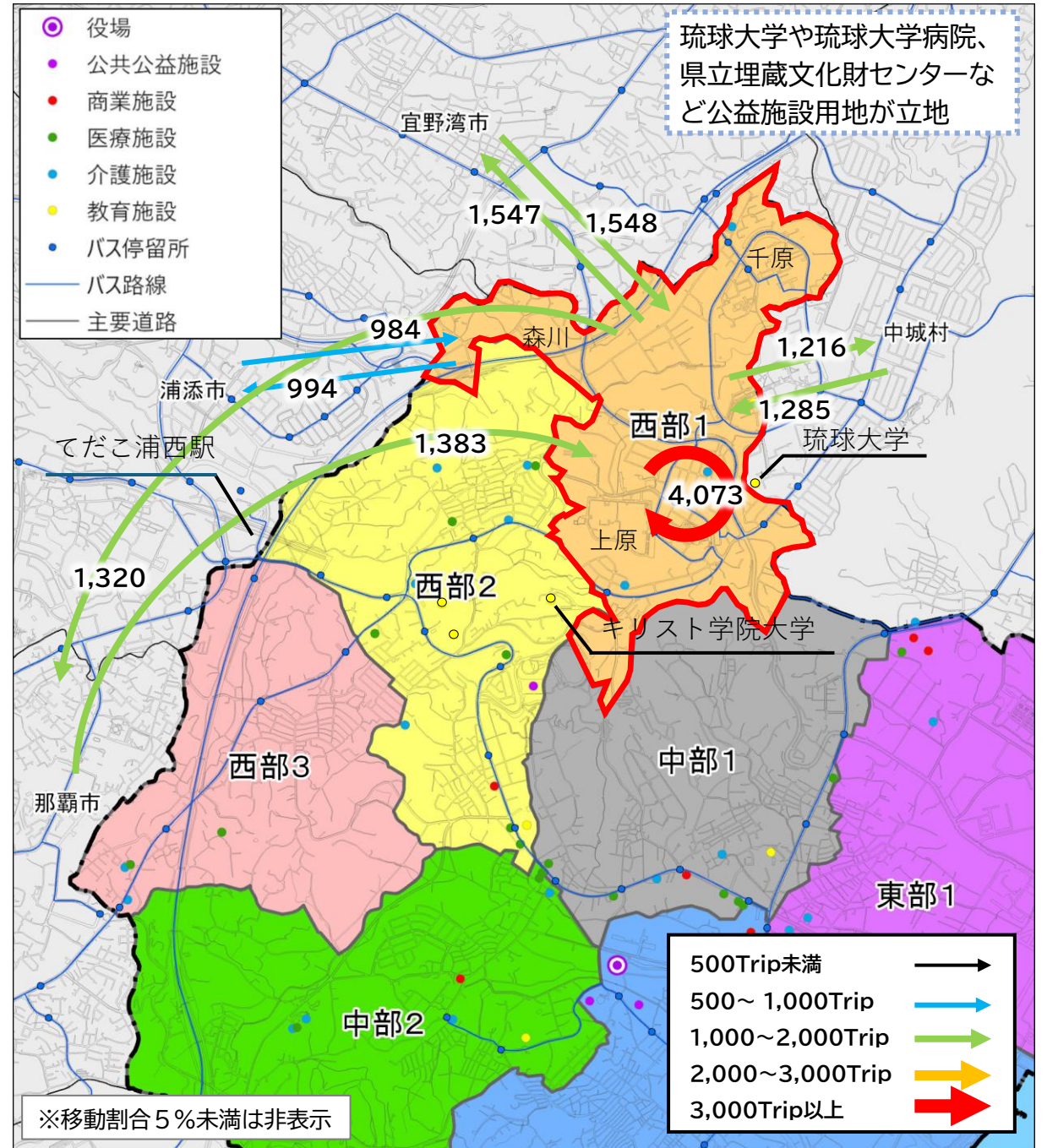


図 西部1内外の移動

②. 西部2（棚原、徳佐田、翁長、坂田）の移動

- 西部2の移動状況を見ると、地区内の移動に加え、那覇市や浦添市といった近隣市町村への移動が多くなっている。
- 主な移動については、**バス路線で概ね対応可能な状況**となっている。

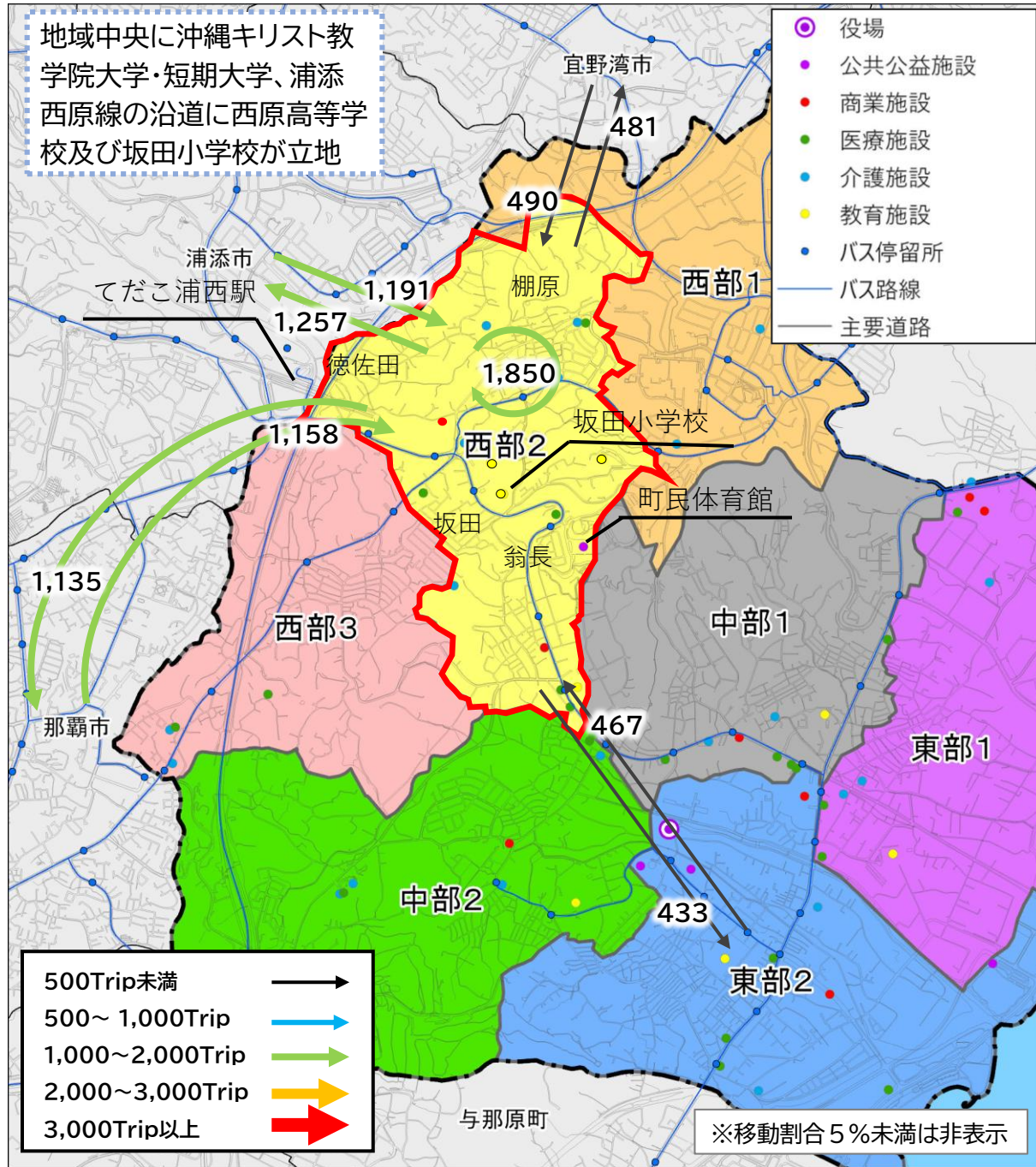


図 西部2内外の移動

③. 西部3（幸地、幸地ハイツ）の移動

- 西部3の移動状況を見ると、地区内の移動に加え、那覇市や浦添市といった近隣市町村への移動が多くなっている
- 浦添市や南風原町への移動については、**バス路線では対応できていない状況**となっている。

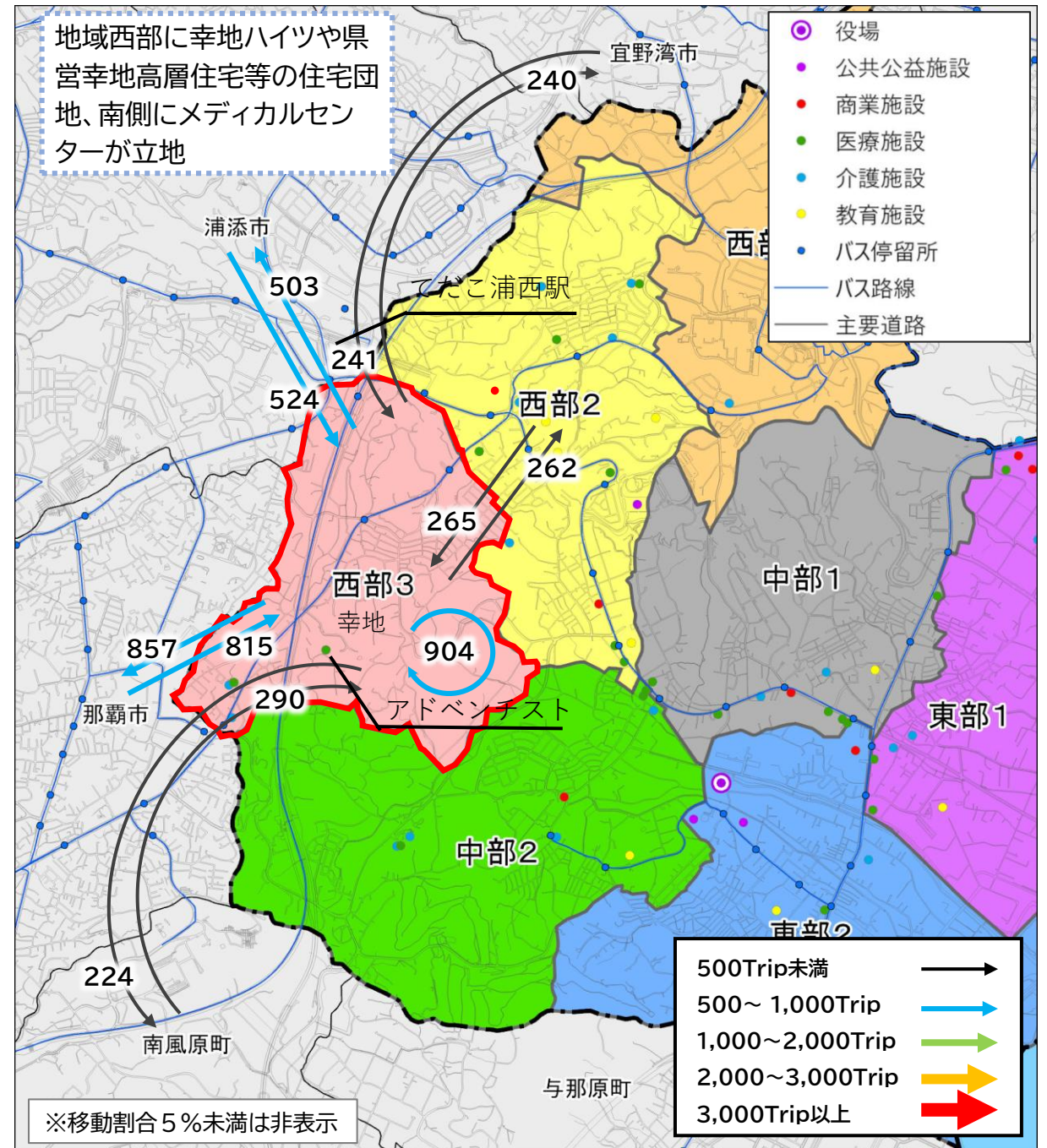


図 西部3内外の移動

④. 中部1 (呉屋、津花波、小橋川、内間)の移動

- 中部1の移動状況を見ると、地区内の移動に加え、那覇市や東部2への移動が多くなっている。
- 東部1や宜野湾市への移動については、バス路線では対応できていない状況となっている。

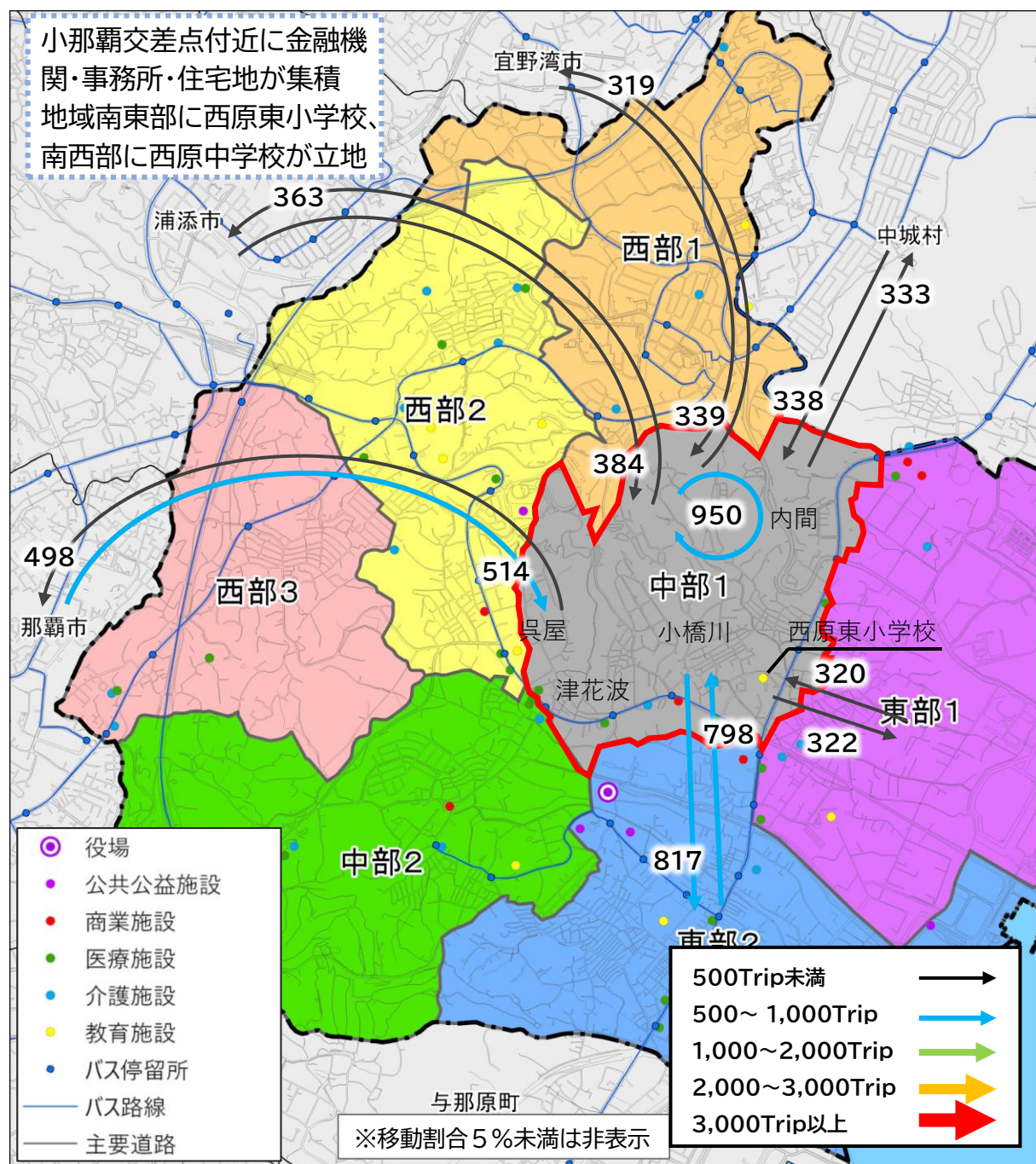


図 中部1内外の移動

⑤. 中部2 (池田、小波津、安室、桃原)の移動

- 中部2の移動状況を見ると、地区内の移動に加え、那覇市への移動が多くなっている。
- 那覇市や浦添市へは、経路上かなり遠回りする必要があり、実質的には対応できていない。また、与那原町への移動も対応できていない。

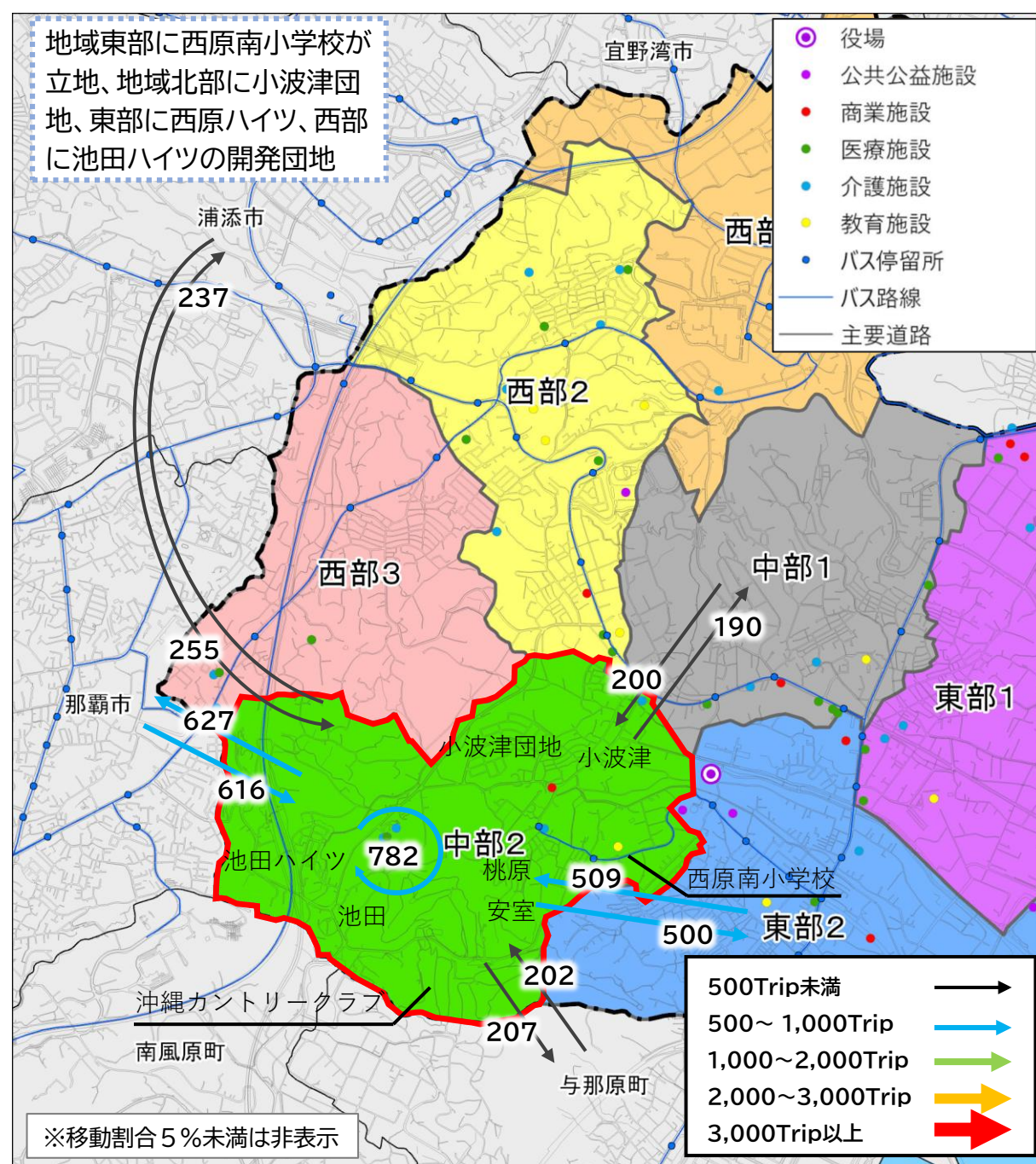


図 中部2内外の移動

⑥. 東部1（掛保久、小那覇）の移動

- 東部1の移動状況を見ると、地区内の移動に加え、那覇市や浦添市、宜野湾市、与那原町、中城村といった他市町村への移動が多くなっている。
- **国道沿いを除く他市町村への移動については、バス路線では対応できていない状況**となっている。

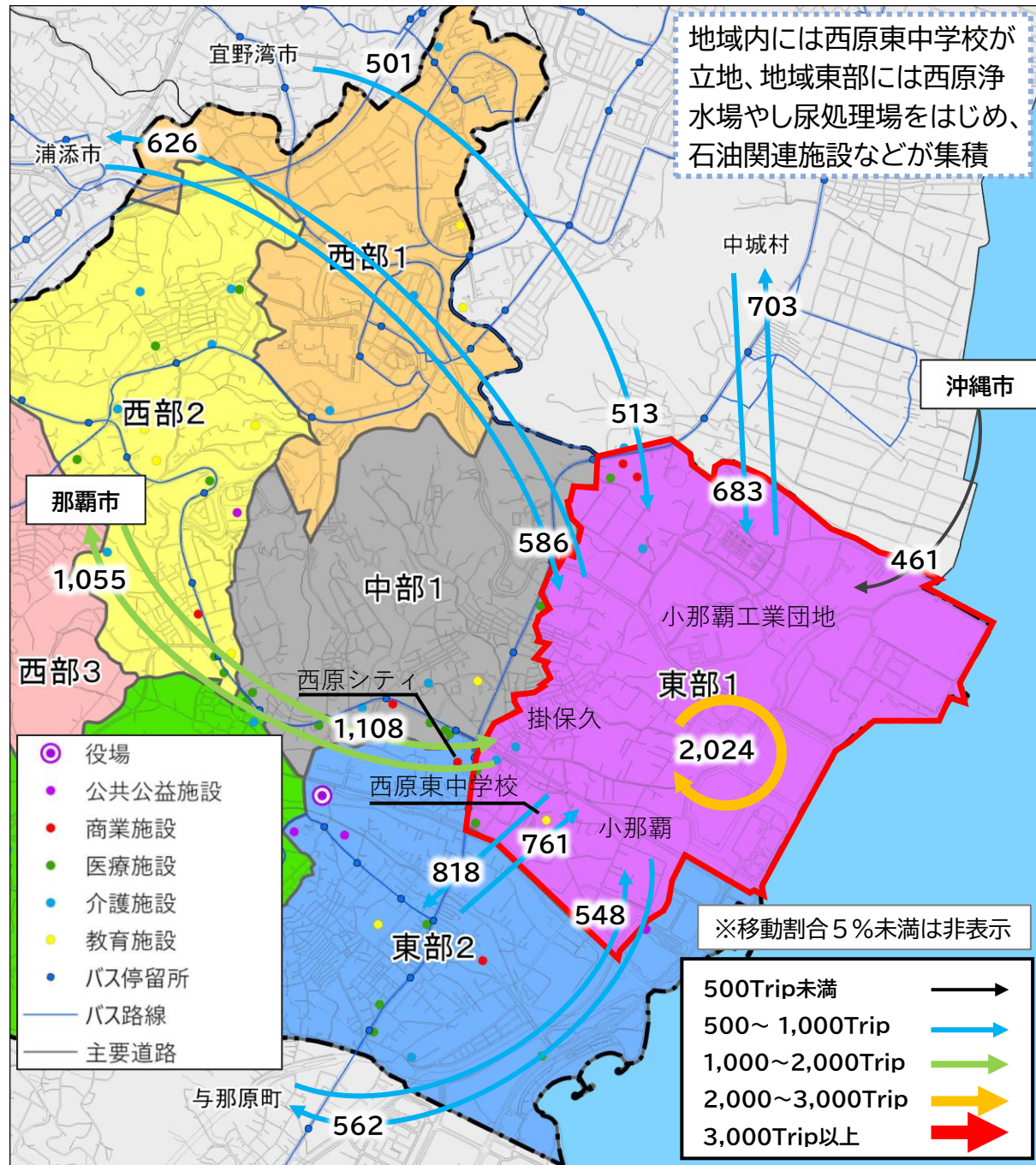


図 東部1内外の移動

⑦. 東部2（平園、兼久、与那城、我謝）の移動

- 東部2の移動状況を見ると、地区内の移動が突出しているほか、那覇市や浦添市、与那原町といった近隣市町村への移動が多くなっている。
- 主な移動については、**バス路線で概ね対応可能な状況**となっている。

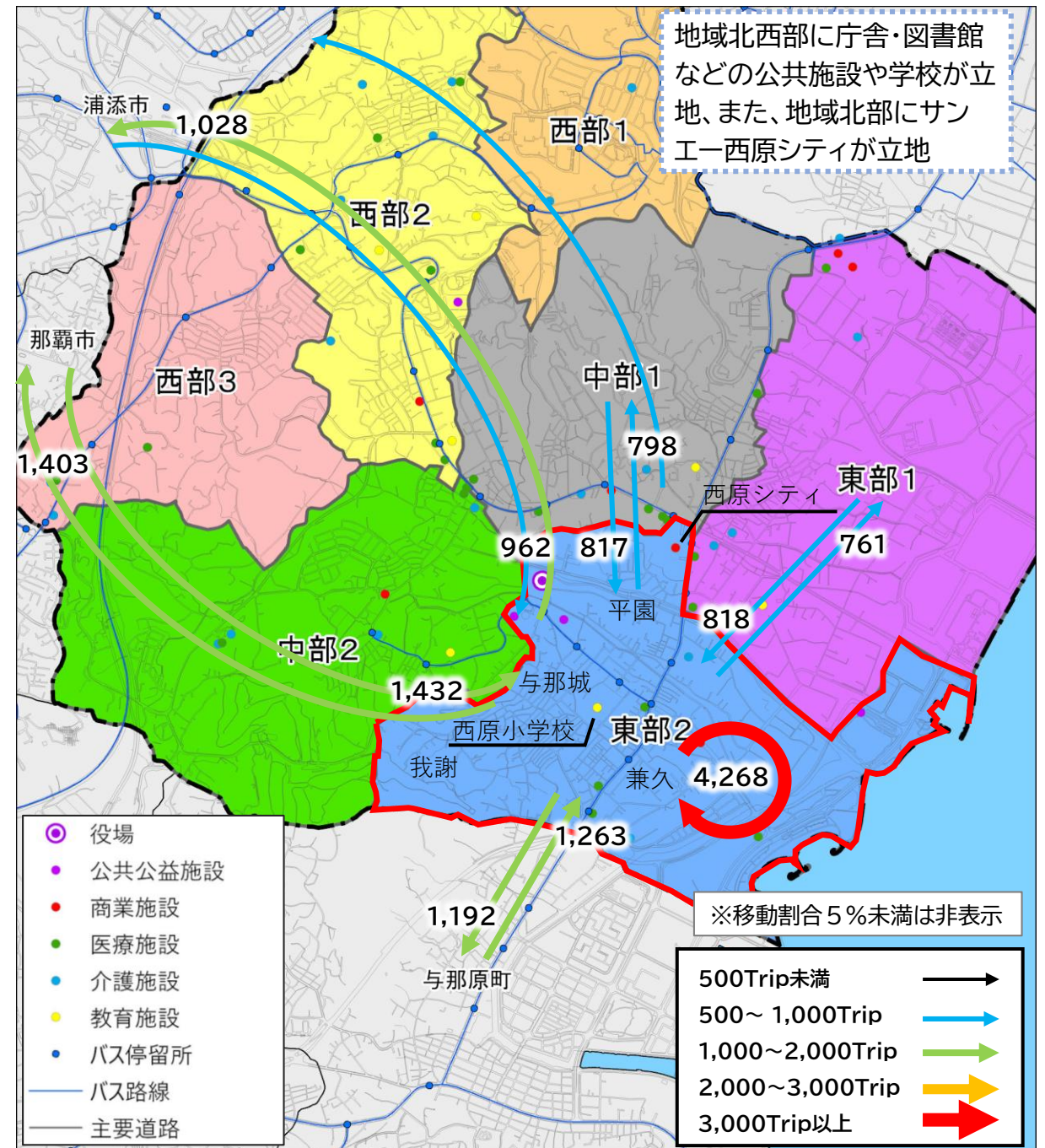


図 東部2内外の移動

4. 西原町の移動に関する問題点

●「各種調査の概要と調査結果」「ビッグデータによる移動特性把握」を整理すると、西原町の移動に関する問題点として下記に示す内容が上げられる。

問題点①

住民ニーズと交通ネットワークの乖離

- 幸地や池田、小波津団地、小那覇、掛保久といった地域は、バス路線が限定的であり、住民の移動に沿った交通手段が不足(町内⇔町外)。
- 呉屋、津花波⇔掛保久、小那覇といった、町内の移動についても交通手段が一部不足(町内⇔町内)。

問題点②

バス停までの移動手段の不足

- 地区内をバス路線が通過しているものの、バス停までの移動手段がない状況。
- 公共交通に対する不満として、「自宅からバス停等までの距離が離れていて歩くのが大変」が多数。
- シェアサイクルの利用も限定的。

問題点③

交通ネットワーク全体の連携不足

- 町の幹線道路となる国道329号と県道38号線を路線バスが運行しており、幹線・エリアを跨ぐ移動は対応できない状況。
- 路線バスの改善要望として、「屋根・ベンチを設置してほしい」が多数。
- 乗り継ぎ環境など、交通ネットワーク全体としての連携が不足。

問題点④

公共交通の利用者が限定的

- 最近1ヶ月の公共交通の利用状況は、約7割が「利用していない」と回答。
- 住民の移動需要に沿った交通サービスが提供されていないことや、高齢者が移動サービスを利用できずに困っている実態も一部要因。

問題点⑤

観光客の移動需要の取り込み

- 西原町への観光客の主な目的地となる臨海部等は、公共交通が整備されていない。
- また、観光客の移動手段として、タクシー利用は少ない(レンタカーで移動)。

問題点⑥

通学手段の維持・確保

- 若年層における最近1ヶ月の公共交通利用状況は、比較的高い。
- また、高校生の通学手段として路線バスが多く利用されている状況。
- しかし、郊外部では、親の送迎に頼らずを得ない児童も存在。

問題点⑦

町内の移動サービスの脆弱性

- 交通事業者における運転手不足の深刻化。
- 民間事業者等が行っている送迎サービスや地域ボランティアについても、運転手不足や担い手不足の声が多数。



(再掲) 本日の協議会でご議論いただきたいポイント

以下の視点も踏まえながら内容をご確認ください。

■ 各種調査結果について

- ✓ 必要な調査が行われているか？不足している視点がないか？
- ✓ 各立場からの補足がないか？事実と相違している事項がないか？
- ✓ 西原町に特に求められているものは何か？より議論を深めていくべき課題は何か？

■ 今後の進め方について

- ✓ 検討内容の方向性は適切か？
- ✓ 次回協議会までに確認を求めたい情報等がないか？
- ✓ 現時点で提案したい施策やアイデアがないか？

